

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	一般社団法人発達支援ますと福島 発達支援センターますと		
○保護者評価実施期間	令和8年 2月 3日		～ 令和8年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○従業者評価実施期間	令和8年 3月 8日		～ 令和8年 3月 12日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 12日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	アセスメント力 保護者からの聞き取りに合わせ、通園・通学施設担当者からの聞き取りを行い、普段のお子さんの様子から様々な情報を得ることが可能。 標準化されている各種検査結果、並びに必要であれば当事業所でも検査を実施することが可能。	アセスメント力をより強固なものにしていくために職員にその人の専門性にあった研修会に参加してもらっている。 一例をあげると 保育教諭 ポーテーション療育 作業療法士 感覚統合協会 心理師 LD学会 日本心理学会	一人一人がより専門性を高めていくために『資格手当』を充実させていく。また、その専門性を十分に子どもたちのために発揮していると思われる職員に対して査定額をあげていく。
2	移行支援の充実 就学に向けて『就学支援シート』を作成している。 これは通園先と保護者、そして専門的知見を合わせたますと職員が協力して作成をしている。 転園などに際しては『情報提供書』を作成し、新しい環境でも安心して支援を受けられるようにしている。	就学支援シートに関する取り組みは1年を通して行っている。春に提出される検査結果等を見て、さらに理解が必要と思われるお子さんには、KABCⅡの検査をお勧めしている。 また、園の先生たちと協力してサポートシートを作成するため、情報提供書の中でポイントなどについて毎月お伝えしている。	医療に対しての情報提供書を充実させていきたい。 担当医が知りたい情報を吟味し、短く内容の充実した情報提供書の開発を行ってきたい。
3	地域連携 保育所等訪問支援をほぼ100%に近い、お子さんに利用してもらっている。それにより、通園施設との情報共有と環境のすり合わせが容易にできるようになっている。 保護者の安心にもつながっている。	市内3か所の子育て支援センターに毎週子どもたちを連れて行っている。支援センターの活動では、ますと職員がそこに配置されている支援員に対して、特性のある子の支援を紹介することを意識している。また、問題が起きた時には、事業所内で丁寧に話し合いを行い、地域における問題点も検討している。	支援員との合同研修会などを開催できるよう考えている。 ますとの基本理念に『地域の中でインクルーシブ後方支援』がある。地域の中の文化を少しずつ、替えていくための取り組みを続けていきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	部屋が2つしかないため、相談などを行うことが難しい場合がある。	子どもたちの支援のための部屋が足りない。 運動スペースが小学生には見合わない。	近隣地域に法人本部を移し、そこを子どもたちのための『地域の居場所』と位置付けている。近くには、連携している『金の雫』もあり、事業所を離れても子どもたちが『地域の居場所』としていけるよう工夫している。
2	言語聴覚士によるリハビリが1か月に1回だけとなっている。	福島県の中に児童を専門とする言語聴覚士があまりに少ない。	力のある言語聴覚士に1か月に数回来てもらい、研修をしながら児童の専門家としての力をつけてもらっている。
3	第3者評価をしてもらえる事業所が見つからない。	関連NPOや園・学校から意見をいただき、改善点については検討することはできているが、十分とは言えない。リサーチの仕方が足りないと感じている。	同じような立場にある事業所から話を聞く機会を持ちたいと考えている。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 一般社団法人発達支援ますと福島 発達支援センターますと

公表日 令和8年3月24日

利用児童数 19人中19人回答

回収数 100%

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	18	1				
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	18			1	年度はじめに写真付き職員一覧表をいただけると嬉しいです。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	19				ますとさんの構造化・視覚支援にいつも助けて頂いています。視覚支援の方が理解しやすい息子にとって、安心できる場所となっていてありがとうございます。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間になっていると思いますか。	19					
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	19				本当によく見ていただき、専門性が高いと感じます。 ありがとうございます。 とても親身に寄り添っていただき、特性に合わせた支援をしてもらえからこそ家でもできることが増えました。本当にありがとうございます！	
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	19					
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	19				なかなか理解されにくい息子ですが、先生方はいつもよく分かってくださり、感謝するばかりです。支援計画もいつも丁寧に制作して頂いてありがとうございます。	
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	19					
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	19					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	19					
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	16	1			2	保育所訪問ありがとうございます。 少しずつ幼稚園でも連携取れて嬉しいです
保 護 者 へ の	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	19					
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	19					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	18	1			とても勉強になるペアレントトレーニングや茶話会などに参加出来て良かったと思います。 今年度もペアレント・トレーニング、茶話会での講習会、とても勉強になりました。	
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	19					
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	19					
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	19					

説明等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	16	3			
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	19				
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	19				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	19				
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	19				
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	18			1	
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	19				
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	19				
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	17			2	
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	19				
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	19				
	29	事業所の支援に満足していますか。	19				本宮市にますとさんがいてくださることに、いつも感謝しております。

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	一般社団法人発達支援ますと福島 発達支援センターますと				公表日	令和8年 3月 24日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		適切であると考えている。長期休み中など地域の居場所の利用も行っている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		・普段は適切であるが、子どもが多く、有給をとる職員がいると足りないと感じることがあるので、グループ療育の時間を長くするなど工夫している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・パーティションを用い、子どもの特性に応じて構造化を図っている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・清掃・清潔に気を配っている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・スヌーズレンルームがあったり、パーティションを使って空間を区切ったりしている。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		十分とは言えないが、そのようにしようと努力している。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		評価表を公開し、見ていただけるように通知を行っている。保護者からの意見に関しては、業務内で改善するようにしている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・朝のミーティングを毎日行い、週末午後から会議の時間を設けている。 ・毎朝のミーティングで常にスタッフの意見を聞き、改善につなげている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	訪問に訪れている園やNPO理事など第三者からのアドバイスをいただくことで事業内容の改善を行っている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・興味のある研修やお勧めの研修が紹介され、参加できる機会が設けられている。 ・必要な研修に加え、心理検査や支援についての研修を度々受講している。	
適切な支援の	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		・アプリを使って確認できる。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		標準化された検査なども使い、各専門家が中心となり分析、意見を出し合っている。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		・常に子どもの最善の利益を念頭に置き、スタッフ皆でケース検討を行っている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		・専用アプリにていつでも見れる状態になっており、計画に沿った支援を行っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		・トレーニングを受けた心理師が実施するフォーマルアセスメントに加えて、多職種スタッフがインフォーマルなアセスメントを日々行っている。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		十分に内容を反映させていると考える。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		主担当を中心として毎回プログラムを作成している。	

提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		毎回、子どもたちに合わせて変えている。		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		適宜組み合わせている。個別担当とグループ担当に分かれ、支援を実施できるように計画作成を工夫している。		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		朝のカンファレンスで必ず、時間配分担当を確認している。		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		・支援終了後は記録と保護者への連絡・環境整備に追われることが多いので、朝礼と金曜の午後に行われている。 ・口頭での共有に加え、記録の閲覧でも共有されている。		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		・徹底している。		
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		・内部記録をとっている。		
	関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		・参加している。	
25		地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		・情報提供書を作成し、連携を心がけている。		
26		併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		非常に力を入れ行っている。通所施設の行事等の内容も把握し、子どもたちにとって最善の利益を考え、その時々を利用をどちらで行うか保護者に提案できるようにしている。		
27		就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		・シームレスな支援につながるよう、園とも協力して就学支援シートを作成し、情報共有を図っている。		
28		(28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	○				
29		質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。					
30		(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。					
31		(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○	○		児童センターはないが、福島大学との定期的な事例検討会は行っている。	
32		保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○			・地域の子育て支援センターに毎週言っている。	
33		日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			・専用アプリの連絡帳機能を活用している。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			年1回 5回シリーズでペアトレは行っている。また、ピアカウンセリングは3か月に1回行っている。		
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			契約の際に時間をかけて伝えている。変更がある場合は、「おしらせ」をアプリ上で伝えている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			家族の意向だけでなく、子どもの最善の利益は常に意識している。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		モニタリングを必ず行い、その際に大枠の計画についてともに検討し、計画を公開している。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		気になる方には、事業所から声かけをすることもある。また、申し込みがあれば早急対応を心がけている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		きょうだい支援についてはまだ、十分とは言えないが、茶話会の時の療育支援はきょうだいも受け入れる旨を伝えている。	
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		すぐに対応するような態勢はとっている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		十分に行っている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		アプリ利用も含め、留意している。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。		○	ご家庭の事情にあわせて意思疎通に努めている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		周辺の方には、事業所の活動内容にかかわっていただく機会を設けている。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		茶話会の際にご説明を行っている。訓練は担当を決め、毎月行っている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		救出訓練はまだ行っていないが、避難は定期的に行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		投薬依頼書をいただいている。初回の面談で時間をかけて聞いている。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		食物アレルギーのあるお子さんについては医師の指示書等を提示していただいている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		行っている。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		茶話会や「活動記録」にて行っている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットの作成はとても大切にし、共有に努めている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		研修担当を決め行っている。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。			契約の際に、具体例をあげ説明をおこなっている。		